

アートで彩る志木市の暮らし

2020年の東京オリンピック・パラリンピックを目前に、日本文化の魅力を発信し、2020年以降も日本の文化が発展するよう進められている「Beyond2020プログラム」。そのロゴマークを、本市在住で横浜美術大学に通う菅原さんがデザインしたことをご存知ですか？今月は、菅原さんをご紹介しますとともに、市で取り組もうとしている、アートを活用したにぎわいづくりをお伝えします。

好きなことだから続けられる

幼いころは、木登りをしたり、裸足で外を駆け回ったりと、ケガが絶えないおてんばな女の子だった菅原さん。一方で、絵を描くことも大好きで、時間を見つけては、よく描いていたそうです。

高校3年生になり、自分の進路を改めて考えたとき、ずっと好きで続けていた絵を大学でも学びたいの思いから、美術大学への進学を決意しました。

「私は、けっこう負けず嫌いで、やると決めたらやりきるんです」と話す菅原さん。その言葉のとおり、美大受験を決めた後は、週6日予備校に通い、通常の受験勉強に加え、美大受験ならではのデッサンなどについても、猛勉強し、晴れて横浜美術大学に進学しました。4年生となった今でも、市内から片道2時間をかけて通学しています。

「当時のスケジュールは今考えるとゾッとします。でも、好きなことだからこそできたんだと思います。今の通学も同じです」とハニカミながらもしつかりと答えてくれました。

beyond2020プログラムとは



伝統的な芸能や食文化、クールジャパンとして世界が注目するコンテンツなど、地域性が豊かで、多様性に富んだ日本文化の魅力を、2020年の東京オリンピック・パラリンピックへ向けて発信するとともに、2020年以降を見据え、共生社会、国際化に繋がるレガシー（遺産）創出のため、政府が推進している文化プログラムです。

問合せ／秘書広報課

内線2009



菅原 みこさん(横浜美術大学4年)

志木市の好きなのは、水や緑豊かな自然があふれる環境や柳瀬川の土手いっぱい咲き乱れる桜だそうです。

10月14日(土)・15日(日)に開催する横浜美術大学芸術祭では、菅原さんの作品も展示されますので、ぜひ、足をお運びください。



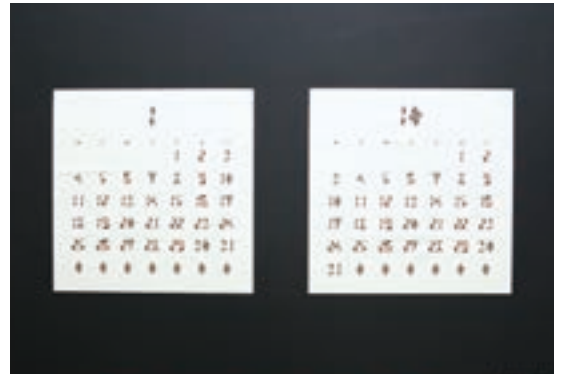
出典：首相官邸ホームページ

▲今年の1月には、丸川オリパラ担当大臣(当時)から表彰状が手渡されました

「デザインをするうえで一番大切なことは、コンセプトが最後までぶれないこと」。そう語る菅原さんが専攻しているビジュアルコミュニケーションデザインでは、伝えたいこと、伝えるべきことが、見る人にきちんと伝わるのが重要な分野です。作り手のコンセプトがぶれてしまうと、それによってデザインされた作品は、当然、伝わりにくい作品になってしまいます。

没頭して、自分が満足するまで描きあげる絵画とは違い、コンセプトがぶれないよう、常に客観的に考え、そして、答えのないデザ

デザインとは、伝えたい想いをカタチにすること



▲寄木細工をモチーフにしたフォントでデザインしたカレンダーがお気に入りの作品



▲ブランディングをテーマに、ロゴやリーフレットなどを作成する課題にも取り組みました

インの世界において、「完成」を判断することがとても苦勞する点だそうです。

その反面、コンセプトどおりに完成し、自分の伝えたい想いが伝わった瞬間は、なにもものにも代え難い達成感が味わえるのだそうです。

beyond2020のロゴデザインのコンセプトは、日本の文化を共に継承し、拡げたいとの願いのもと、前向きな想いを「いいねー」のジェスチャーで伝えること。そこに、beyondの「b」や日本を象徴する「わ」が見事に融合しました。まさに、伝えたい想いが伝わり、最高の結果に結びついたのがbeyond2020のロゴデザインでした。

アートでまちのにぎわいづくり

問合せ／産業観光課 内線 2165

市では、アートをきっかけとして人の流れを生み出し、市内を元気にするための新たなまちのにぎわいづくりに向けて動きはじめました。

アロハ商店会、マルイファミリー志木、(株)志木都市開発、志木市の4者が一体となって進める「志木駅東口にぎわい検討会議」では、志木駅東口のペDESTリアンデッキをアートで彩る計画を進めています。まだまだ、はじまったばかりの会議ですが、有名アーティストや地元高校美術部に描いてもらうなど、駅前を彩るさまざまな構想が持ち上がっています。

また、毎年冬の風物詩にもなっている駅前広場のイルミネーションとのコラボレーション企画も検討中で、これからの志木駅前は、目が離せません。アートを活用した新たなまちのにぎわいづくりに、ぜひ、ご期待ください。



新しい目標に向かって

お菓子、特にチョコレートに目がない菅原さんの夢は、お菓子のパッケージをデザインすること。「デパ地下へ行くのとたくさんさんのデザインであふれています。あれを見ると、とても嬉しくなり、ワクワクするんです。今度は、私のデザインで、たくさんの人に喜んで

らったり、ワクワクしてもらいたいです」と目を輝かせていました。

最後にこれからの目標について聞いてみると、「好きなことに取り組む時間は、とても楽しく、幸せなことだと思います。大変な時期もあるかもしれませんが、その気持ちを忘れていきたくありません」と、デザインを続けていきたいです」と凛とした表情で語ってくれました。